



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第38号

2017年8月9日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.17

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

中学生との「距離感」

SPの順応性がすばらしい



今年初めて、中学生がわくわく数学教室に来てくれました。昨年まで経験していたSPさんにとっては、小学生と違うので、少し戸惑いがあったようです。でも、しっかり順応してくれて、最高の支援をしてくれました。それを紹介します。

「小6とはたった1歳違いなのに、雰囲気は全然違いますね」。あるSPさんの感想です。そうなんです。たった1年間でも、ぐんと「大人っぽく」なっています。集中する時間も長くなり、1人で黙々と考える時間も長くなります。数学は、一つの問題を論理立ててじっくり考えることが要求されます。小学生ですと、その時間が短いので、SPさんが関わり声をかけるタイミングが頻繁になりますが、中学生は「じっくり考えている」ときに声をかけるのはNGです。考えることこそが大事ですので、そこはSPさんには「言いたいのを我慢して、待つ」のが支援です。待つことがとても大事になってきます。

その点をしっかり理解し、見極めて、支援してくれていました。中学生への支援には、SPさん自身がしっかり「シフトチェンジ」してやっていたのです。小学生のようなテンションの高い会話ありません。ちょっと会話したらあとは黙々と…というテーブルもありました。それでよいのです。遠くからのぞき込み、必要なときに必要なだけアドバイスをすればOKなのです。遠くから見守るのもすばらしい支援です。それをしっかりやりきってくれました。SPさんの力量の高さに驚きました。

